

様式1 **令和2年度 清瀬市立清瀬第三小学校 学校評価計画**

<b>学校の教育目標</b>	<b>育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動</b>
○よく考え やりぬく子ども(重点目標) ○やさしく 思いやりのある子ども ○明るく 元気な子ども	【育成を目指す資質・能力】 「協働問題解決能力」 ○基礎的な力(言語、数量、情報スキル) ○他者と共に考える力(協働問題解決力、メタ認知) ○他者と共生できる力(人間関係形成力) ○社会の中で実践する力(社会参画力、自律的活動力)
<b>目指す学校像(ビジョン)</b>	【特色ある教育活動】 重点1 「協働問題解決能力」を中心に学力の向上を図る 重点2 他者と共生できる豊かな人間性を育む 重点3 「協働問題解決能力」を育む学校支援本部の活動を保障し、地域に開かれた学校づくりを推進する。
【目指す学校像】 地域の風が行き交う学校 ◎「共に学んでよかった、明日も学びたい」といえる学校	
【目指す児童・生徒像】 「他者と協働して主体的に問題を解決しようとする子ども」	
【目指す教師像】 ◎進んで学び合い、責任をもって教育活動を遂行する教師 ・児童一人一人と信頼関係を築き、個々のよさを引き出す教師 ・保護者や地域と連携する教師	

**前年度までの学校経営上の成果と課題**

・「誰にでも分かる授業づくり」の視点で三小スタンダードをもとに指導や教室環境の整備を充実させることができた。協働問題解決能力の向上をめざし、校内研究で算数の研究に取組み、一定の成果をあげることができた。サマースクールの開催など学校支援本部の支援による教育活動もさらに充実した。課題としては、校内研究での昨年の成果を基に、算数だけでなく他教科においても、これからの未来社会を生きる力、すなわち協働問題解決能力を育てていくことが挙げられる。そのためには学校支援本部をはじめとする保護者・地域や専門家の方々との連携し、教育活動全体を通して基礎的なスキル、思考力・判断力・表現力、人間関係形成力、社会的実践力などの力を意図的・計画的に育むことが必要である。また、1月1度の避難所運営会議で非常時の計画が整ってきた。今年度は児童の防災意識を高める活動を計画する。

柱	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	取組指標(評価基準)	成果指標(評価基準)
確かな学力の向上	「三小スタンダード(学習)」を生かし、学習意欲の向上と基礎基本の確実な定着、思考力・判断力・表現力の育成を目指す。	ユニバーサルデザインの視点に立って、どの子ども伸びて学び合える授業づくりを行う。	1時間の学習展開の中で全員が自分の考えを表現する場面を作り、全員参加の授業をつくる。	4 ほぼ毎時間の授業において実施 3 実施率80%以上 2 実施率60%以上 1 実施率60%未満	4 自分の考えを表現する児童80%以上 3 自分の考えを表現できる児童70%以上 2 自分の考えを表現できる児童60%以上 1 自分の考えを表現できる児童60%未満
		校内研究では基礎学力ならびに思考力を育成するための国語(書活動)の研究に取り組む。	どの子どもすすんで書きたくなる課題づくりやグループ学習の方法を工夫し、考えを広げたり深めたりできる授業をつくる。	4 全学年全学級で実施 3 実施率80%以上 2 実施率60%以上 1 実施率60%未満	4 課題に進んで取り組む児童80%以上 3 課題に進んで取り組む児童70%以上 2 課題に進んで取り組む児童60%以上 1 課題に進んで取り組む児童60%未満
豊かな心の育成	自他の生命を尊重し、豊かな心と社会性をもつ児童を育てる。	挨拶が響きあい、規律のある落ち着いた環境づくりに努める。	「挨拶と返事」が確実に身につくように、学年・学級で工夫して取り組む。児童会での取組みを強化し、児童が自分から挨拶できるよう意識の向上を図る。	4 全学年全学級で実施 3 実施率80%以上 2 実施率60%以上 1 実施率60%未満	4 教職員や来校者に自分から挨拶できる児童80%以上 3 教職員や来校者に自分から挨拶できる児童70%以上 2 教職員や来校者に自分から挨拶できる児童60%以上 1 教職員や来校者に自分から挨拶できる児童60%未満
		人権に配慮し、いじめや暴言、暴力のない学校づくりをすすめる。	どの子ども学級に居場所があるように、いじめ未然防止の取組を学年毎に工夫して行う。	4 全学年全学級で実施 3 実施率80%以上 2 実施率60%以上 1 実施率60%未満	4 学校に来るのが楽しいと感じている児童90%以上 3 学校に来るのが楽しいと感じている児童80%以上 2 学校に来るのが楽しいと感じている児童70%以上 1 学校に来るのが楽しいと感じている児童70%未満
健やかな体の育成	「三小スタンダード(生活)」を基本として、望ましい生活習慣を身につけ、自らの健康や安全に留意し、明るく元気で体力のある児童を育てる。	運動を推進し、体力向上に努める。	体力向上旬間の取組では、個人や学級毎に目標数値を掲げて取り組む。	4 全学年全学級で実施 3 実施率80%以上 2 実施率60%以上 1 実施率60%未満	4 自分の目標またはカードを達成した児童80%以上 3 自分の目標またはカードを達成した児童70%以上 2 自分の目標またはカードを達成した児童60%以上 1 自分の目標またはカードを達成した児童60%未満
		「早寝早起き朝ごはん」点検を通して、生活習慣の改善を図る。	「早寝早起き朝ごはん」点検の結果等を使って、児童と保護者に対して生活習慣への啓発を工夫して行う。	4 点検表の提出者が学級の90%以上 3 提出率80%以上 2 提出率70%以上 1 提出率70%未満	4 早寝早起き朝ごはんAの児童80%以上 3 早寝早起き朝ごはんAの児童70%以上 2 早寝早起き朝ごはんAの児童60%以上 1 早寝早起き朝ごはんAの児童60%未満
特別支援教育の充実	「三小スタンダード」に基づき、ユニバーサルデザインの視点で指導法の改善を図り、児童の自己肯定感の向上を図る。	児童への指導・支援の共通理解を図るとともに、特別支援についての研修会を実施し、児童の自己肯定感の向上に努める。	週1回の校内委員会・年3回以上の研修会を実施し、個別支援の必要な児童についての共通理解を図り、指導・支援の方法を共有し、指導に当たる。	4 週1回の校内委員会・年間3回以上の研修会の実施率90%以上 3 校内委員会・研修会の実施率80%以上 2 校内委員会・研修会の実施率70%以上 1 校内委員会・研修会の実施率70%未満	4 教職員の達成度の評価A 3 教職員の達成度の評価B 2 教職員の達成度の評価C 1 教職員の達成度の評価D
		保護者会等を通じて、三小スタンダードに基づく指導方針について周知し、保護者・地域の理解を促す。	保護者会の際に特別支援コーディネーターによる説明や資料提供を行う。	4 全学年全学級で実施 3 実施率80%以上 2 実施率60%以上 1 実施率60%未満	4 教職員の達成度の評価A 3 教職員の達成度の評価B 2 教職員の達成度の評価C 1 教職員の達成度の評価D
本校の特色	児童同士や保護者・地域との「ふれあい」を通して、他者とすすんで関わろうとする児童を育てる。日常の言語活動の継続、読書活動の充実を図る。	児童間のふれあいの場を活用し、役割意識と協力する気持ちを育てると共に学校支援本部との連携を通して、地域や保護者との連携を強化し、教育活動を充実させる。	感染症対策を図った上で、異学年交流を図ると共に、学年ごとに地域や保護者等との参画型授業・出前授業等を計画的に工夫して行う。	4 全学年全学級で実施 3 実施率80%以上 2 実施率60%以上 1 実施率60%未満	4 異学年交流や地域の人とのふれあいを楽しいと感じる児童80%以上 3 異学年交流や地域の人とのふれあいを楽しいと感じる児童70%以上 2 異学年交流や地域の人とのふれあいを楽しいと感じる児童60%以上 1 異学年交流や地域の人とのふれあいを楽しいと感じる児童60%未満
		俳句作りを継続し、情操を豊かにし、言葉の感性を高める。また、読書目標を掲げ、児童の読書率を向上させる。	読書への興味を高める取り組みを、学期毎・学年毎に計画して実施する。計画的に俳句作品の掲示や発信を行う。	4 全学年全学級で実施 3 実施率80%以上 2 実施率60%以上 1 実施率60%未満	4 教職員の達成度の評価A 3 教職員の達成度の評価B 2 教職員の達成度の評価C 1 教職員の達成度の評価D